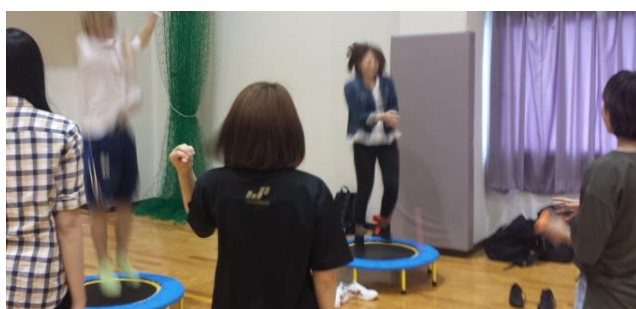




作業療法学
専攻
ニュース
5月号

感覚あそびの演習！

演習の様子



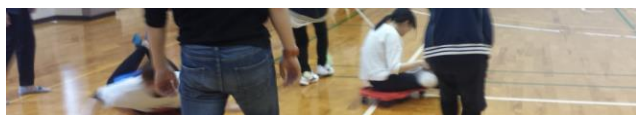
発達過程評価学演習は、発達障害を「(心理的ではなく)神経学的に評価・治療できる視点を育てる」作業療法の授業の一環です。

今回は、子の発達に重要な「感覚機能」に特化したあそびを大学内の体育館で体験しました。



こちらは毛布そり。対象が毛布に乗って、引っ張り手は2人です。強く毛布を掴むため、筋肉の感覚（固有覚）や、スピードや回転運動を感じるため、バランス感覚（前庭覚）を主に刺激します。

小児作業療法では、「遊び」から子を評価し、治療につなげていくことが重要になります。



こちらは触覚あそびブースです。触覚は細かい動き、物や道具の操作機能の発達に関連があります。写真は、たらいの中に入ったシェービングクリームを触って体験している場面です。

…すでに顔に塗られている学生さんがいますね。



60分程度の体験でしたが、やはり顔はこうなりました。

皆さん、この後、遊んだ内容を「体験レポート」として提出したそうです。



以上、発達過程評価学演習の授業風景でした！